

道北のガンカモ類と風車建設計画

○長谷部 真(NPO 法人サロベツ・エコネットワーク)

道北地方(宗谷・留萌地方)には27種のガンカモ類が生息し、5種が繁殖する。中でもミコアイサは国内で唯一の繁殖地とされている。ガン・ハクチョウ類の春と秋の主要な中継地として5つの湖沼が存在し、ペンケ沼はオオヒシクイの中継地として国内最大である。サロベツ周辺には国立公園・ラムサール湿地・IBAなどが存在する。

道北地方にはすでに170基の風車が存在または着工済みであるが、新たに800基の風車の建設計画がある。中でも、稚内市から天塩町にかけて地域では道北7事業231基ほか多くの風車建設計画が集中している。

風車位置を選定するゾーニングに当たり、ガンカモ類の影響がほとんど考慮されなかったため、道北7事業などでは、国立公園域などを除いたガン・ハクチョウ類の渡り経路上や中継地を取り囲むように無秩序に計画されている。このため、渡りについて不明な点が多い中で、ガンカモによる風車への衝突や衝突回避のための渡り経路変更などが懸念される。道北地方で風車が建設されることになれば、国内の他の計画地でも、見直しを計ることが難しくなることが予想される。

今後は引き続き、日本野鳥の会・日本野鳥の会道北支部・北海道ラムサールネットワークなどの関係団体と連携しながら、渡り状況などの調査を行うとともに、事業者や環境省・経済産業省・北海道、地元自治体などの行政機関に計画の見直しを働きかける。また、鳥類研究者、環境保全団体、海外の鳥類保護団体などにも計画の見直しを計るための情報提供と協力の要請を行う。これらのことをメディアをうまく活用しながら発信し、一般者からも賛同を得ることで世論形成に努める。



図 道北地方における風車建設計画